

ニカメイガにお困り方必見！ニカメイガの被害を半減させる方法！

秋の田起こしと冬の湛水によるニカメイガの防除法

収穫後の耕起と湛水管理で越冬するニカメイガの幼虫を減らします。ニカメイガ被害にお困りの皆様、是非お試しください。

施術の内容

冬季に湛水状態を保つことで、ニカメイガの幼虫を効果的に防除できます。

イネの茎を食害するニカメイガの幼虫は、イネ刈り株に付着して越冬します。イネ刈り株をすき込み、水田を湛水状態に保つことで、翌年度の防除をすることができます。



幼虫による被害
(白穂)



イネ刈り株で越冬する
ニカメイガ幼虫

収穫後（福井県は10月）、幼虫の越冬場所となるイネ刈り株を粉碎し、ゆっくり深く耕起することで、土に十分にすき込みます。

収穫後



幼虫が休眠する冬季（福井県は11月下旬～2月）、土が見え隠れする程度の湛水状態を保ち、イネ刈り株を水没させて幼虫を殺します。

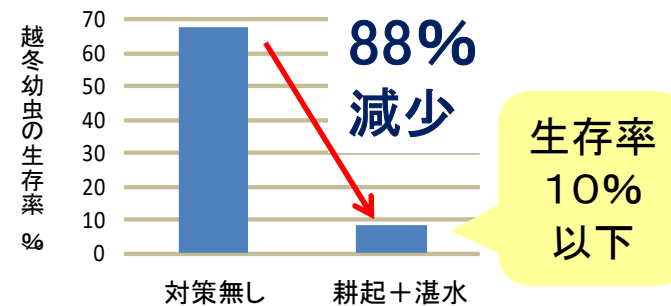
冬季



漏水が少ない水田では、暗きよ水閘を閉める程度の湛水処理で可能。

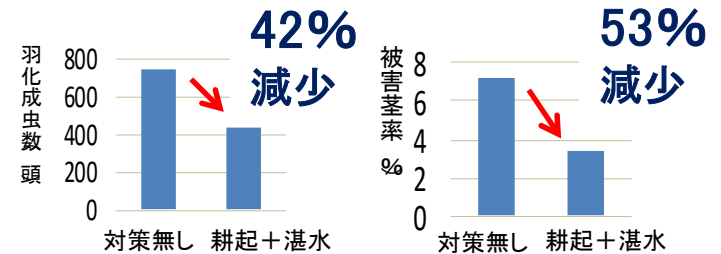
導入メリット

・越冬幼虫の生存率が10%以下になります。



越冬幼虫に対する耕起・湛水の効果（福井県農試、平成26年）

・羽化成虫は42%、第一世代幼虫の被害茎率は53%減少します。



羽化成虫数および第一世代幼虫による被害茎率に対する耕起・湛水の効果（福井県農試、平成27年36ha大規模処理、平成28年直播栽培）

広域的に実施することで効果が高まります。